

# 心堂癌話

特 255

814

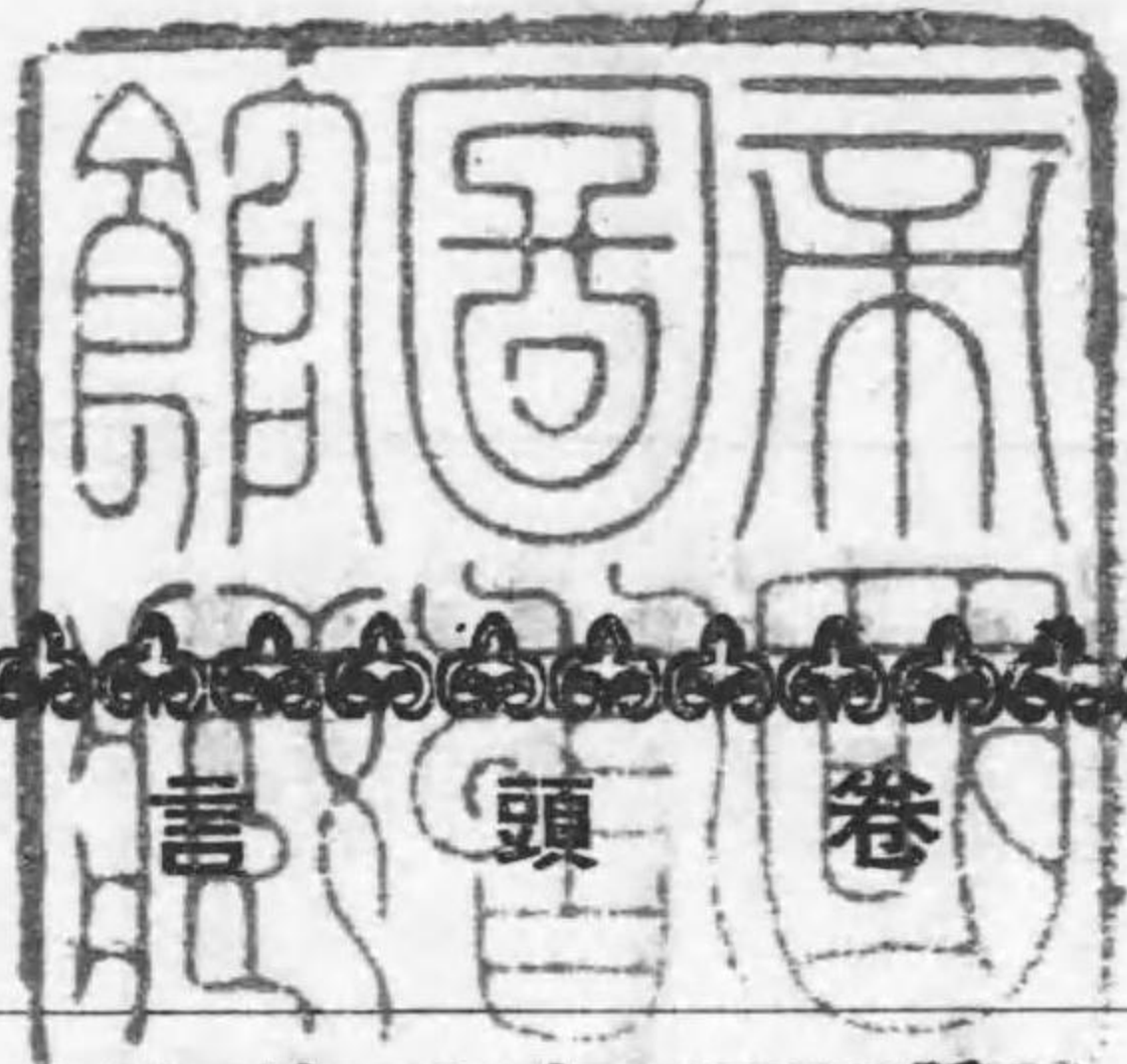
## 目 次

卷 頭 言	……………	(一)
癌の治つた話の目的	……………	(二)
不幸なる癌の諸氏へ	……………	(三)
日本一の醫聖「カク」の徳本	……………	(四)
癌腫撲滅の大運動團	……………	(五)
癌の治つた事實の話	……………	(六)
治癌薬発見の尖端考察	……………	(七)
癌腫の食物養生に就て	……………	(八)
全治者を再検討して	……………	(九)
癌腫發生の種々相を観る	……………	(十)

# 始



特255  
814



言 頭 卷

四百四病の中で、癌腫ばかりは薬がないと云はれてゐる。ただしそれは、ないと思つてゐるだけで、實は未発見に屬するものである。

自然は人生のあらゆる疾病に良薬を與へてゐる、ひとり癌腫ばかりに與へてゐない道理はないのだ。それが発見されずにあるのは、努力と研究が足りないからだ。

若しも社會の將來に、醫藥が國營となつたら、その時は必ず発見されて、不治の疾病も救はれるであらう。何と云つても難病である癌は、その薬を発見しても、患者の數とその治療難の點に於て、營利の打算に當らないから、それに災ひされて、まだ発見されずにゐるものなのだ。

空飛ぶ事は夢とされてゐたが、それが現實となつた世の中である。自然につくられた人生に、他に良薬があつて、癌腫ばかりにそれがないとは、蓋し勝手な人間達の錯覺の大きなもの、一つであらう。

著者寄贈本



現代唯一の治癌薬  
 カンケロウツリン  
 壹週間分百瓦入定  
 價金七圓送料廿錢

# 癌の治つた話

## 癌のなほつた話の目的

癌の治つた話を澤山あつて見ました。一時的に輕快させるには外科的治療も奏効しますが、再發の憂ひのない眞の全治者は、悉く内服薬の效果に據るもので、切開手術の結果で全治されたと云ふのは、百人ほどの中で、手術後五年以上の健在者は、唯だ一人、昔の司法大臣法學博士故松室致先生だけでありました。先生の癌は上顎癌であつたと申されて居ります。此の本は單なるくすり賣の宣傳ではありません。癌を治すには、まづその病根を知ることが絶対に必要です。それでないと、自宅で見守るにも、養生させるにも、民間的な治療なされるにも盲者に發砲させるのと同じ結果に終りませう。癌は全治させ得る性質ある、營養變調に據る慢性病で、起死回生も十分可能性をもつ理由がありますから、どうか心を鎮めて、篤と御精讀を願ひます。私共はいたづらに、くすりを賣りひるめたいとばかりは思ひません。ですから、決しておすゝめいたさないのです。ひろめて見たい點は、癌に對する特種な知識であります。

昭和八年二月三日

洗心堂主人述

## (一) 不幸なる癌の諸氏へ

廣大無邊とも申される此の世の中の事ですから、人生の不幸な出來事、悲惨なる疾病の問題は數の知れないほど澤山ありませう。だが、癌に罹つては總ての悲惨事を超越した、人間界の最大なる不幸事であり、言語に絶した悲惨事であると申されます。

それは單に、癌は難病の王座を占めたもので、絶対不治の病症と考へられて、醫師より死刑の宣告を下されるばかりでなく、病勢が猛進して参りますと、肺結核で血を咯くよりも、チブスの高熱で焼かれるよりも、突如としてそれに數倍せる猛烈な苦痛が襲つて参り、それが數十日間も續いた揚句に、驚くべき苦惱を重ねて、死亡する怖るべき疾病であります。

癌の中でも取り分けて、食道癌は食物が通らなくなつて、激痛と饑餓とに攻め寄せられ、口唇癌や舌癌は食事に際して、火で焼けるような大苦惱に直面し、乳癌や子宮癌は激痛と同時に、名狀し難い悪臭ある痛乳と稱する分泌物を發散し、患者と同席してはゐられないほど、とても堪へ

られぬ悪臭に、家族全體が惱まされる、實に不快な氣分になる悪魔的な病氣であります。

されば一 가족の中に、一人の癌腫患者が出來ますと、その爲に非常に陰鬱な家庭となり、一 가족全體の幸福が、殆ど此の病魔に奪ひ去られて仕舞ふものであります。さうして困つた事には、總じて痛と名のつく病人は、必らず一軒の大黒柱である父か母かであつて、卅歳以下のものには極めて稀なもので、また、七十歳以上の高齢者にも尠ないものであります。

明治の文豪尾崎紅葉、明治の富豪岩崎彌太郎、同彌之助、明治の政治家曾根荒輔、また、有名な桂太郎公爵、大正に及んでは加藤友三郎、加藤高明、横田千之助、下岡忠治、最近では江木龔、いづれも斯うした立派な總理大臣、若しくは大臣級の人達が、殆ど申合はせたように癌で仆されて居ります。

幾ら富豪であつても文豪であつても、國家を背負つて立つ政治家であつても、癌に罹つてはとも助からない、それは手術も光線も、完全な治療法にはならず、また、その良薬がないからであり、あつてもその人達の誤れる知識、周圍のもの、先入觀念が邪魔になり、民間薬では信用しないからでもあります。

しかし、それは過去の事で、今後は必らず良薬も治療法も、發見されずにはゐないものです。

また、民間薬にしたところで、生理學的にも、病理學的にも、藥理學的にも、立派な根據のないものでは賣れなくなり、さうしたものゝ中からでも必らず特效薬の生れる時代が參るものと思はれます。現に小店に於て發賣して居る**カンクロウツリン**の内服に據つて、根治してゐる患者が澤山あります。全治してから四年も五年も立つて、決して再發の心配のなくなつてゐる人もあります。胃癌にもあれば直腸癌にもあり、子宮癌にもあります。特に子宮癌には取り分けて澤山あります。

子宮癌が内服薬で根治するのですから、喜ぶべき事であると同時に、それは不思議でも何でもなく、癌の出来る根本原因は、營養の變調より生ずるものである事を斯道の研究者に考へて貰ひたいものであります。

營養の變調にも澤山の種別がありますが、癌に罹る營養の變調は、主として脾臟、肝臟の機能が退化して、腸の中へ或る酵素を送る事が出來ないようになるのが、全身的に癌の發生する根本と思はれます。

私共で發賣して居ります痛のくすりは、現に我國に少しばかり知られてゐるところの、治痛劑の中では、何藥よりも廉價ではありますが、それでも大難病の痛のくすりの事ですから、一般藥のようにお安いものではありませんので、それを宣傳して強いて賣りたいとは思つて居りません。殊にまだ痛のくすりは此の世界に無いと云ふ先入觀念に固まつてゐる時代ですから、醫師はお笑ひになりませうし、知識階級の人達はそれに追隨されるものであります。何分にも我國の痛腫を統計で見ますと、一年間に四萬五千人位の患者があつて、死亡者が四萬三千人と云ふのですから、十人の患者の中で、一人も治つてゐないと云ふ状態ですから、實はくすりの賣りようがないのであります。

私共は現代の風潮をせきとめて、哲學的な東洋醫術の再研究を呼號聲明してゐるものであります。科學者は自然を征服する事に努力して居られますが、もしも完全に自然を征服して、此の世から自然を無くする事が出来ましたなら、其の時は人類の滅亡する時ではないでせうか、自然がなくて、どうして生活が出来ませう。痛は不自然の生活から發生する文化病であります。だから野蠻人の知らない病氣であります。

それはさて置き、小店のくすりをお求めになる病人は、既に三四軒の醫院や病院で匙を投げられたお方か、或は手術を受けてから再發されたと云ふ、全然大難症の御病人ばかりであります。それはひとり小店ばかりではないようです。癌腫の新藥や、新製劑が偶には發賣されますが、どうしても營利効果が擧らないから、面白いほど直に潰れて仕舞ひます。

狭い我國でも毎年百四五拾萬人も生れて、七八拾萬人も死亡いたしますが、癌で死ぬものはその五分程度のものであります。必らず死ぬと申されて居る癌の患者は、年に四萬五千人あるとして、月割にいたしますと、四千人弱となります。

絶へず百萬人はあらうと云ふ、肺結核の患者だの、千萬人はあらうと云ふ、淋疾患者などを目標に賣り出してゐる藥劑とは、比較にならぬ程な營業範圍の狭い、誠に問題にならぬ少數の患者の爲のもので、その上、癌は文化病と申されましたり、富豪病とも申されて、美食に據る刺戟の結果であり、飲酒に據る刺戟の結果でもあり、また、或る種の精神的刺戟の結果でもあり、子宮癌と乳癌以外の癌は、貧者には職業的物質刺戟に據る皮膚癌は別であるが、その他の癌は甚だ少ないものであります。

従つて癌と診断されますと、結構な病院へ直に入院なされます。さうして切開手術を受けられますか、光線療法をなされます。さうしてその結果がよろしくなくて、死刑の宣告を下されてから退院されるものが、八九分どおりであります。さうした場合に、はじめて溺れるものが薬にでも縋つて見るつもりで、街頭のくすりを求められます。

されば實際に、小店のくすりを求めになる患者は、殆ど死を待つ瞬間の不幸な御病人ばかりと定つて居ります。それではとても營業にはなりません。ですから、まだ我國には癌専門の病院もなければ醫院もなく、ましてその専門のくすりやなどは御座いません。

斯うした困難な中に立つて、小店は癌のくすりばかりの専門で、既に拾二年を経過して参りました。さうしてとても助からない患者の中から、多くの全治者を出して居ります。實に奇蹟的ではありませんか。

私共は藥種商であり、製藥業者であります。實は或る機縁に刺戟されて、博士や學士、多くの藥劑師、その他の科學者を雇ひ入れまして、大正十二年から往年まで、滿十年間治癌劑研究所を設けて、癌の特種治療劑の研究に没頭したものであります。

ですが、醫師ではありませんから、癌と云ふ病氣のお話する事は遠慮したのであります。それでは御養生に就ても、御看護に就ても、理解して頂く事が出来ませんから、少しばかり、製藥業者の見たる癌の病原と申す事をお話し申上げます。それはまだ、確に一般的な醫界に於て、研究されてゐないところの、新たなる研究事項であらうと信じます。

一寸餘談を申すようですが、今度ニューヨークに出来ました癌専門の病院は、一千萬圓の財團で癌の研究が本旨となつてゐます。ロンドンには二千萬圓の財團で國立癌研究所があり、獨逸にも國立の癌研究所があり、尤も是等の國では卅五歳以上の人間の死因は、十人の中で一人は癌であると統計で示されて居ります。歐米の癌患者は年々増加の大傾向であります。

さて此の研究のお話を申上げて置まないと、前にも申したように、癌の養生法を御知らせするに就て、その化學的でもあり、理學的でもあるところの、原理を理解して頂く事が出来ないからであります。

たゞし、その病理研究のお話の中に挿んで、小店の癌のくすりに就ての來歴をお話いたし、それに次いで、此の本の眼目である、癌の治つた多くの實驗談を生きたる證據を並べて、順次にお

話し申上げて行く事としませう。

## (二) 日本一の醫聖「カク」の徳本

「カク」の徳本先生と云ふ醫聖がゐりました。

その先生は、武田信玄の幕僚であつて、百十八歳の長壽者でありましたから、寛永頃まで生存された仙醫で、徳川三代將軍家光公の病狀が「カク」であらうと云ふので、餘儀なく御侍醫が斡旋して、當時信州伊那の里の草庵に、餘生を送つてゐた徳本先生を招聘して、將軍の脈を執らしたと云ふので、それが有名になつてゐる醫聖であります。

家光公は四十二三歳の頃に「カク」に罹られたが、徳本先生の投薬に據つて、僅に全治はしたが、インフルエンザに罹り、四十八歳で死んで居ります。「カク」の疾病は今日で云ふ食道痛であります。「カク」は本來ならば瘰癧と書くべきものですが、横隔膜の膈の字が書かれて居ります。一體、痛と云ふ字は日本で作られた文字であります。支那の辭典にはない字です。乳癌が岩の

ように見へるところから、崑の字に疒をつけて拵へました和製の文字であります。獨逸では日本人が岩のように見へると云ふものを、蟹のようだと見て、痛を蟹病だと申して居るさうです。

元龜天正の大亂が平定して、久方振りで太平の世となりましたら、太閤様が「カク」の病患に罹つて、無暗に苦惱して死んだ。一國一城の主となつた勇將の多くは「カク」の病患に悩まされたものが澤山あつたさうです。

然るに「カク」の病氣にはくすりがない、如何なる名醫も匙を投げたものであります。ところで徳本先生は此の難病の治療に、驚くべき手腕を發揮されたのであります。尤も徳本先生は本草學者と云ふ、今日の植物學者でありましたから、先生の用ひたところの痛の靈藥なるものは、植物痛の研究からその端緒を得たのであらうと申されて居ります。

今は既に物故された先生ですが、私共の知人に、長い間醫術開業試験委員をされてゐた醫師がりましたが、此の先生が漢法醫術を調査されて居る中に、甲斐の徳本の書いた寫本を見て、甲斐の徳本は、郷黨の誇りの爲に後世のものがつけた名で、實は「カク」の徳本と言はれた醫聖であつたのです。

面白い事には、此の徳本の議論の中に、百年、二百年後の世の中になると、人間の病患に繋るゝもの、その多くは勞と瘰であらうと云つて、勞と瘰とは素と同一病原より生じ、それは尙ほ庭の中の樹木に疾瘤の出来るのと同じような譯だと云つてゐる事でした。と此の塚原先生は語られてゐました。

勞とは肺結核で、瘰とは膈であり、瘰の事でもあります。そこで「カク」の徳本先生が、瘰の治療にどう云ふくすり<sup>くすり</sup>を處方してゐたかと云ふ事を段々調べて見ますと、植物に出来る病的のコブを見て、それを治療する道から考へたのだと云ふ事になつて居ります。

最近に於ける瘰の病理學を見ましても、植物に出来る瘰は即ち瘰である<sup>こぶ</sup>と云つてありますから昔の醫聖の見るところも、今の名醫の見るところも一致してゐる譯であります。それは有機的<sup>有機的</sup>生物の營養状態が、變調を呈して來ると、發生する病氣であると云ふ結論に達します。

漢藥研究に興味を満喫させられてゐた塚原醫師は、齒科醫を兼ねて開業してゐましたが、乞食の齒と野蠻人の齒は美麗であり、壯健でもあるが、文化人の齒は虫齒だらけで非常に不健全なものだ。文化人の齒の患者、齒の患者と瘰の發生と云ふ研究題目もあらうと、絶えず調査されてゐ

た老醫でありました。

ノーベル氏賞に次ぐソフイー氏賞を受けられた、我國最近の醫聖であつた、帝大名譽教授、醫學博士山極勝三郎先生が、瘰腫發生原因の一面を發見されました事は、世界の醫學界に日本醫學の光りを發揮した、大名譽となつて居りますが、それは刺戟に據つて、瘰腫の發生する事を、動物試験に據つて確められたのであります。

だが、それは全面的眞理ではありませんまいと私共は考へて居ります。醫學博士角田隆先生も、その著、瘰の早期診斷及治療學に於て、瘰腫は脂肪及蛋白質の消化不能となり、大便中に多量の中性脂肪球及不消化の肉纖維を證明すと云はれてゐます。それからまた、私は瘰の發生する原因を區別して、局所の原因と一般的原因として説明しますとも云つて居られます。内務省衛生局の統計では、肺結核に罹るものは、二十歳と云ふ青年期が最高記録を作つて居り、瘰腫に罹るものは、六十歳と云ふ老年期が最高記録を示して居ります。

我等の二十歳と申しますと、徵兵適齡であり、體力發達の上から見ましても、花ならば明日満開と云ふ時に中つて居りませう。然るに肺結核は多くその頃に發病するのであります。身體に最



とも脂肪の乗つて来ようと云ふ時期に、よしんばそれが、微菌から傳染されるとしても、肺結核に感染し易いと云ふことは、何かその間に不思議な病理作用はないでせうか。

また人生には昔から還暦と云つて、満六十歳になりますと、本卦返りをすると申されて居ります。支那には易と云ふ奇妙な哲學が五千年も前からあつて、六十四卦の中から、天で兩極の二卦で兩極の二卦を除き、あとの六十卦を以て人生の運命を批判し、概ね六十數を以て人生の終末を語り、七十は古來稀なりと云つて居りました。

幾ら衛生學が進みましても、人間の頭數は殖へませうが、壽命の方は伸びて居らず、寧ろ短縮されて居ります。特に醫師社會の平均的壽命は、他の職業より劣つて居るのは變ではないでせうか。

醫者の短命に理屈をつけて、心配になる職業だからと申して居りますが、然らば精神衛生學も精神營養學も、早晚此の世に生れて参りませう。

いづれにしても人生は、まづ六十歳位を以て終末と見なされますが、その年齢は脂肪の最も少なくなり出す頃で、脾臓も肝臓も機能が衰退し、脂肪や蛋白の消化が不十分となり、十年前までは豚のように肥へてゐた人でも、六十歳位になりますと、段々瘦せて参るものです。然るにそ

の時が一番癌腫に罹り易いのであります。

それでまた、七十歳となり八十歳となる長命のものは、癌腫にも肺結核にも殆ど放免された人物となります。六十歳位の人の死因を調査しますと、十人の中で三人以上は癌である事が知れます。然るに七十歳とか八十歳とかの、老人の死因は概ね血管硬化に據る腦溢血とか、或は腎臟系統の疾患に定つてゐるものであります。

十七八歳から二十歳、即ち青年期は肉體的にも活動が激しく行はれ、思春期に直面する爲にか精神的にも激動し易く、かゝる原因が動機となつて、どうかすると、脾臓や肝臓の分泌物が缺乏して、非常に脂肪消化力の衰へる場合のあるものです。それは、顔面や背部にニキビと云ふ、脂肪性の吹き出ものが出來ますのは、さうした營養變調の證據と見られるものです。

四十の初老期、五十、六十歳となる期間の中に、どうかすると無暗に肥へ太り、そうかと思ひますと、無暗に瘦せて参る事があります。或る場合に脂肪消化力が減退しますと、肥へ太つて参りますが、また、その反對に瘦せて参りますのは、脂肪消化力の變調に據つて、さうした症狀が起るものであります。

初老期になりますと、或る精神的刺戟の生理的作用で、殊に甚だしく脂肪消化力の衰へて参るものです。近來の醫藥界では、成育素とも申されますところの、A、B、Cその他のビタミンの研究が盛んになりましたが、ビタミンは概ね脂肪の中にあるものですが、その消化力が衰へますと、總てのビタミン缺乏の爲に、著るしく營養の變調を呈して参ります。總ての脂肪は胃で消化されずに腸へ下り、腸に注かれる唾液と胆汁で分解消化されて、ビタミンを作り出すのです。

だが、早合點してはいけません、ビタミン療法は、まだ完全しては居ないので。脂肪と全く分離した、純粹のビタミンでなければ、患者には消化されないから無効のものであります。更にまた幾らビタミンが營養素と云つても、生物はそればかりで、決して成育するものではありませんまい。

不治の癌腫はどうして出来る、それは或る種の營養の變調が、青年ならば肺結核に感染する素因となり、老人ならば癌腫に罹る原因となるのであります。營養の變調とは、日露戦争の際に、ステツセル軍が、旅順の要塞で、壞血病に悩まされたような事もさうですが、精神的刺戟

からでも、立派な營養變調を呈する實例は澤山あります。たゞしまだ研究中の問題ですが、青年が肺結核となり、老人が癌腫となりますのは、之れを物質的に見ますと、恐らくは相共に、脾臓と肝臓の働らきが、何等かの原因で衰へるのが根本であらうと實驗されて居ります。従つて手術ばかりで癌を全治させようといったしますのは、稻の周囲の雜草さへ抜き去れば、それで立派な米が出来ると考へるようなもので、何と云つても良い肥料の力でなくては、結構なお米を收穫することは絶対に出来ませんまい。

「何と云つても病氣には良藥です」

大正十四年の秋でしたが、大阪市東區道修町二丁目の、藥種商であつて相當の資産家である小西伊兵衛老人が、六十六歳で胃癌に罹り、醫科大學の附屬病院へ入院されました。レントゲンで診察を幾回か重ねた結果、肝臓癌と決定されましたが、最早手術も服藥も見込みなしとあつて、自宅で死ぬのを待つより道なしと宣告されました。

そこで、家事の整理を遺憾のないように片づけて、ともかくも年を越してから死にたいといはれてゐたが、病氣の方で待つてはくれまいと考へ、とても助からぬと觀念し、どうか残つた家族

を樂に暮らせ、自分も極樂淨土で樂がしたい、と云ふ譯から姓名を作樂と改め、知己友人に死の豫報を通告し、全く生れ變つた人間の氣持となつて、勿論大苦痛を體驗させられつゝ、暮の十五日に死亡されました。

さうしてその遺言狀に、死體を病院に寄附して、せめては癌の良藥を發見する何かの資料にでもなれば幸ひだとあつたので、一同協議の末に、大阪市立の市民病院へ交渉して、死體を寄附する事になり、小幡院長立會ひの下に、醫科大學の村田教授が解剖したところ、はじめは極めて小さい胃痛から、肝臓に無數の癌が出來て、その爲に肝臓は普通の二倍半の大きさとなつてゐたさうです。

そればかりではない、更に此の癌が、脾臓すいぞうにまで出來てゐることがわかつた。斯うした事はまだ醫學上珍らしい事で、同病院では藥品に積めて保存してゐます。小幡院長の話に據りますと、肝臓に癌が出來ることはないではないが、胃痛から斯の如く澤山の癌が肝臓に移轉し、またそれが、解剖するまでわからなかつた、さうして脾臓まで出店を開いてゐるなどは全く珍らしい。

これなどは醫師が外部から診察したゞけでは分らぬことであり、また生きてゐる人と、屍體と

は解剖の結果にも異なる點があつて、面白い事を發見した。

小西氏は屍體全部を病院へ寄附すると云ふ遺言だつたが、葬儀の事もあるので、肝臓と胃袋と脾臓だけを貰つてあとを返した。將來もこんな奇篤な人の死體は申出でさへあれば、病院へ貰つて研究したいと語つて居られました。

以上の實際問題から見ましても、切開手術の方法もなく、また明確に、癌は全身病であつて、局所的な疾患でない事が立證されたものと思はれませう。癌の治療はどうしても、營養の改善に基礎を置かなければ、總てが無効であります。小店發賣のキャンクローツリンは後章で詳細に申述べますが、「カク」の徳本先生の遺方であり、例へば前段に記述した小西氏のような患者でも、此のくすりを用ひますと、まづ以て抗癌酵素が働らき出して、癌の増殖する猛烈の勢ひはピタリと中止して仕舞ひます。内臓機關が破壊されてゐては、起死回生は望めないが、大苦痛を和げて極樂的に平和な無苦痛の往生が求められます。

### (三) 癌腫撲滅の大運動團

何處の誰が斯うしたくすりを飲んで、胃痛が治つたとか、子宮癌が治つたとか、さうした話も澤山ありますが、此處にお話したいのは、小店の治癌劑に據つて、立派に全快されて、人生の最後の幸福を盛れる餘生を樂んで居られる方は數百人あらうと信じてますが、今はたゞ小店の知れる範圍に於て、現存して居られる二三の實例を掲げてお話しただけとしませう。

なにぶんにも、癌腫は營養の變調から發生する病氣ですから、急激に惡化する患者があまりありません。急性病ではありません。寧ろ慢性病中の慢性なるものであります。總ての病氣の治療日數の統計を見ますと、病氣と云ふものは、平均的に見て、悩んでゐた日數ぐらい掛りませんと、全治の運びまでには至らぬもので、苦惱してゐただけの日數を経過して、初めて徐々に全治に向ふものであります。

風邪を引いて熱が出たので、三日間は床に就てゐた。斯うした小さなやまひの病人でも、熱が取れてもやはり三日間位は經たないと、全治したとは申されないであります。特に癌腫のような慢性病でありますと、半歳も一年もお醫者にかゝりながらも、輕快しないで苦痛なその日を暮して居られる御病人が澤山あります。

さうした癌腫の御病人は、幾ら小店のくすりを用ひられましても、やはり半歳とか、一年とかの月日をお待になりませんと、徹底的には全治の運びに至らぬものであります。それは宛もお庭にある一本の植木が枯れかゝりますと、植木屋職人が參つて枯れないように、手入れをして肥料をやり、養生をさせますが、今日手あてをして、明日回復する事は斷じてないのと同じ道理であります。

たゞし、急性病の中には、特效藥の注射が奏功して、案外即座に快復するものもありますが、快復後には、何等かの補強劑を與へるのが常となつて居ります。

前段のところ、營養の變調と云ふ事を申し上げましたが、それは身體が生きて行く力に故障が出来たような事を云ふのであります。發動機にガソリンを送る事が出来なければ、自動車は動かなくなります。ガソリンを送る管に少しの塵芥でも附いて、工合が悪くなつても、運轉力が變

になるものでありませうが、その變になつたところから、機械の一部に狂ひを生じて来るものであります。人體の營養變調とは斯うしたような譯のものであります。

だが、自動車ならば人工で製造したものですから、それを分解して修繕すれば治療も出来ませんが、人間は天工ですから、切開手術したところで、あとの治療は良薬の肥料を與へて、自然の力でないと、どうする事も出来ないものであります。しかし、果物は天工ではありますが、適當の肥料を與へますと、自然のものよりは良果を得られます。内服薬は果物に對する肥料のようなものでもあります。

さて癌の治つた話、と云ふ意味には、中つてゐないかも知れませんが、世界的に大きな問題となつてゐるものがあります。幾度も申上げて置いたように、癌腫は文化病でありますから、我國よりは遙かに文化の程度の高い、歐米諸國の方が多いのであります。

ズツと前のお話ですが、世界戦前の統計で見ますと、世界中で一番癌の多かつた國は、丁抹でありました。その頃の癌死亡者の多い國から順ぐりに並べて見ますと、人口百萬人に就て癌の死亡率は、丁抹が千四百人、英國が千三百人、スコットランドが千三百卅人、瑞西が千三百八十人、瑞典が千二百四十人、ノールウェイが千百十四人、和蘭が千百十三人、米國が九百十九人、フランスは八百人、我國の大正十三年、即ち千九百二十四年の統計では、六百九十四人となつて居ります。

だが、我國の今日は急増して勿論千人以上であり、その反對に世界第一の癌腫國であつた丁抹は五百人以下となつたさうであります。どうして丁抹は、急轉直下的に、癌腫が消滅に向つたかと申しますと、それは國家が食料を統制し、同時に偉大なる新營養學者が出現して、衛生學の基礎を爲す、營養知識を國民の間に普及させる事が出来たからであります。

それは丁抹と云ふ國が、世界大戦中には、中立國ではありましたが、四方一帯が戦亂國となつたので、殆ど食糧攻にされた光景となり、豚と牛と鶏とばかり食料の主なるものとなつてゐた傳統から、餘儀なく菜食主義の國となつて、四年間も肉の缺乏に會はされてゐたところ、不思議な事には癌腫患者は全治し、新規に癌腫に罹るものは、殆ど地を拂つて仕舞つたのであります。

尤もそれは、たゞ肉食から菜食になつたら、それで癌腫が退治されたと云ふような、そんな單純な事でなく、フォイトと云ふ營養學者に光りの端緒を發して、丁抹のヒンドヘーデと云ふ先生

が、食料を國家に統制させて、その配合均分等が、よろしきを得た結果であります。だがいづれにしても、肉食と飲酒は癌を製造する基本であり、人生に益の少ないものである事は證明された譯です。

日本對癌運動促進會と云ふ、癌の撲滅運動を起さうと云ふ會が設けられた事があります。此の會には癌に對する研究者であつた、多くの博士や學士が澤山顔を並べて居りましたが、その會の機關誌の發表したところの中に、丁抹では久しい間に亘つて、癌の死亡率は追々増して行つたが、或る年代から減少しはじめました。

癌の増して行く年月の間に、丁抹人の食物は、植物食から次第に動物食に變つて行つた。然るに或る年代から豚の屠殺數が著るしく減少した。それで丁抹の學者は、癌の出来るのは、動物性の食物を食ふ事と、深い關係があるらしいと云つてゐるのです。

また、英國の統計で見ると、滋養に富んだ食物を食つてゐる酒飲みに、癌の死亡者が一番多かつたと云ふて居ります。アメリカの四十三の生命保險會社が、共同事業として二十四年間に亘つて、人の死因と營養との關係を調査した成績表を見ますと、癌の死亡者は良く肥つた人に一番多

い。大體に於て脂肪類と酒類とを喰べ合はせる生活を續けてゐるものに、胃癌が多いとなつて居りました。

以上は普遍的なお話しばかりで、癌の治つた話としては甚だ不徹底なのですが、しかし、癌に對する養生法をお知らせする上には、最も必要な基礎的研究事項でありませう。

#### (四) 癌の治つた事實の話

昭和六年のまだ櫻の咲かない春先きでした、私共の店舗へカシウヅリンをお求めに見へられた老紳士がありました。その老紳士のお話では、自分の相續者である長男、吉井喜一氏が、大阪の或る大會社に勤めてゐる中に、原因不明の胃腸病に罹られて、二三軒の病院めぐりをしたが、症状は段々悪化するばかりでありましたので、衰弱して歩行の自由を缺く身でありながら、友人に助けられて漸く汽車に乗り、郷里の茅ヶ崎新町五丁目宅へ歸つて参りました。

そこで東京第一の稱ある南胃腸病院へ入院させましたら、直腸癌と云ふことに決定して、不治

の病氣と宣告され、入院してゐても無駄でせうと云はれましたが、あきらめきれず、止むなく諸方の病院めぐりをはじめてゐましたが、診断の結果はいづれも同じことで、結局入院しても無益と云はれますので、またも神奈川縣茅ヶ崎の郷里に立歸へり、自宅で死ぬのを待つと云ふ心細い境遇ですが、さうした病人でも全治する場合のあるものでせうかとの話であつた。

斯うした難症の患者に、必らず全治すると云つて高價なくすりを賣る事は、どうも小店にても確信がないのですから、甚だ躊躇される問題です。と云ふのは既に諸方の病院で見放されると云ふのは、最早身體も衰弱の極に達してゐるでせうし、腸の一部が破壊されてゐるとしますと、それは全然快復の見込みのないものですから。さうした理由をお話して、まづ最後のあきらめの爲に、一週間でも服藥させて、それが相當の利目があつたように、御病人自身が感ぜられたならば繼續して見られたらどうでせう。

カンクロウヅリンが幾ら靈藥であるにしても、それはまだ御病人が、相當な體力があり、一ヶ月ぐらいの御壽命のある間でなくては、藥効を發揮する期間もありませんから、まづ試験的だと思はれて、餘り大した希望を持たれないで、御試用ありてはどうですと答へましたし、くすりを求

めて歸へられました。如何にも悄然たる姿で歸へられました。

然るに一週間後にまた見へられて、幾らか良い氣分がするようだと、病人が申して居りますから、尙ほ一週間分續けて見ますと云はれました。それから以後は、必らず一週間目には藥を求めに見へられる事になり、もし此のお宅のおくすりで、せがれの一命を助ける事が出来たら、お禮も屹度いたしますよと、云はれながら根氣よく三ヶ月ほど、服藥されて居りました。

此の御病人の體驗談では、はじめの一ヶ月ほどは、服藥しても病勢は一進一退で、たゞ幾分か身體の倦怠を緩和されるぐらいに感じてゐましたが、段々と薄紙を剝がすような氣分となつて、三ヶ月目には病床を離れる事が出来て、五ヶ月目位から散歩の爲めの外出も出来るほどになり、半歳後には、ともかく斯うしてお禮の爲め、茅ヶ崎から汽車に乗つて、お宅まで參られるようになり、殆ど全治したものと信じますと、之れは本人からの直話であります。

今日は昭和八年二月三日であります。痛腫患者と云ふものは、それが何痛でありますとも、手術治療の爲め、或は光線治療の爲め、またはその他の療法に據つて、一時は輕快する事があつても、二三年の中には再發して、十人の九人半までは死亡するものと云はれて居りますが、直

腸癌の全治した茅ヶ崎町の吉井喜一氏は、一昨年の全治後以來、身體は昔のように健康になられてゐるところを見ますと、決して癌の治療は悲觀すべきでない事が立證されて居るわけです。

尤もそれには、嚴重に食物療法をも勵行されないとむづかしいのです。癌は幾度も申上げるように、脂肪の不消化が發病の根本原因でありますから。再發しないようになさるには、それに對する養生して、身體の營養を調節される事が絶対必要な條件であります。

私の母が子宮癌に罹り、貴堂の靈藥で全治しましたから、友人の家の患者を御紹介しました、また、私の父の胃痛が貴堂のおくすりで快復しましたから、同村某の御病人におすゝめいたしました。どうか便宜を計つて上げてくださいと云ふような、御注文はザラにあります、一々さうした禮狀を御披露したのでは限りがありませんから、此處には幾分なりとも興味の深い全治者だけを、御参考の爲め掲げるだけにいたしました。

昨今では多忙を極めて居り、また、治癌劑研究所も閉鎖しましたから、御病人に對して一々御通信もいたしません、當初は盛に御たづねしたものです。それでその時代にあつまりました、患者諸氏のお手紙の二三を掲げて見ますと………

「謹賀新年」

謹啓時下酷寒の砌り貴堂愈々御隆昌の段國家の爲奉賀上候、就ては拙納儀、一昨大正十二年一月以來、癌症に犯され、當地咽喉科醫師に治療を受け候も、サラに効驗無之、依つて新潟醫專の診察を受け候て、治療九十日間も滞在候も、益々悪く詮方なく、同十二年十月慶大へ入院切開を願ひ候後も快方の赴きなき故に、帝岡田博士の受診に依り、漸く喉頭痛症と相判明致し實は癌症と相成候病者は死刑の宣告同様故に、生命を斷念致し、天命を待ち居り候處、昨年六月月中旬東京朝日新聞夕刊廣告に依り、治癌藥有之候事拜見致し、天にも昇る心致し、直様願ひ致し、最初七日分御送附を相願ひ、毎日服用致し候も、六十日間位は殆ど効驗無之候爲め、實は落膽仕り居り候得共、今後尙十日間もと辛抱致し服用仕候處奇蹟的に効驗いちじるしく相成り實に嬉しく合掌して貴堂を遙拜仕り申候次第、未だ全快致したるとは存ぜざるも追々全快致し候事確實に有之候、目下嚴寒の節に候へども何の障りも無之、毎日寺務を取り居り候次第に御座候、右につき御禮申上候、昨年一月頃は重態にて、食事も思ふやうに出來兼ね、身體も衰弱致し、床中に呻吟致し居り候も、お陰を以て靈藥の曙光を認め、同病者あらば宣傳仕



リ居り候、又近日中に御送藥お願申上候、先づは御禮旁々お願ひまで草々敬白。

元旦早々賀状を賜りお禮申候

大正十四年一月七日

新潟縣〇〇町本妙寺

大 澤 智 要

喉頭痛はとても尋常では全治しないものであります、それは多くの場合に於て、既に食道痛か或は胃に轉移してゐるからであります、さうした進行症状がなかつたから、幸ひに輕快されたものと思はれます。

食道痛や喉頭痛や舌痛などから比較して見ますと、胃痛は全治の餘地の多いものであります。飲酒や肉食や文化食品の刺戟が原因になると申しますが、精神的の刺戟も無視する事は出来ません。岩崎家の創始者、英雄富豪で有名なる岩崎彌太郎氏は、時の政府と戦つて、乗るか反るかの一番勝負の苦戦中に胃痛に罹つて仆れて居ります。

桂太郎公爵は政府が意の如くならず、憲政擁護運動などが起つたので、餘儀なく新政黨の組織に

取掛り、大金を散亂させたりして、最後の大奮闘を計畫中に、胃痛に罹つて病歿されました。

濱口内閣の支柱であつた江木翼氏は、官吏減俸案で大苦惱されたり、また、世界的不景氣の最中に、金解禁國とした爲めの心配やら、非常に煩悶されましたので、胃潰瘍は突如として、胃痛に進行したものと見へます。

帝大教授醫學博士長與又郎先生は、我國に於ける癌研究會の會長であります。先生の癌に對する御講演の中に、

「癌年齢」に就てとの一章があります。

癌には謂ゆる癌年齢があつて、四十代から五十代、六十代と云ふように、人生の間で最も大切な時期、男性でも女性でも、一家としてはその首長であり、家庭の中心であり、社會に取つては最も活動し得る時代の人達の生命を奪ふのであるから、此の死亡者四萬と云ふ數字は國家として非常に大なる損失であつて、死亡者の第一位を占める肺炎が、主として乳幼児であるのとは大分意味が違ふと語られて居ります。

さて胃痛の全治者は澤山あります。

拜啓書面を以て申上候、毎度御送附下され候胃痛の薬を飲みましてより、跡方もなく全快致し只今は何仕事を致しても出来るように成りましたが、一時は最早全快はかなはぬと思ひ、神に佛にお願致すより外なく、死を待つ有様と成り候處、知人より新聞紙に胃痛の新薬あり、良い薬の有様ゆへ、一應用ひて見てはとすゝめの書面送附下され、其れが爲め、醫師の見はなしたるところ、只今はすつかり全癒致しましたゆへ、紙上を以て厚く御禮申上候。

十月二十一日

愛知縣三河國〇〇郡〇〇村吉川

山下清九郎

拜啓陳ば度々と御書面下され有難く御禮申上候次ては私し事拙者名前は同村豊田善作なる者新愛知新聞を取り長く読み候處貴店之廣告に目が付き豊田善作なる者も長く胃病にて困りおり胃病なる廣告に目を留め其れ故私しより又々病ひおもき同村同組の山下清九郎殿方にすゝめたる次第其時拙者書面を送りたる次第に御座候此山下清九郎殿方妻が長々の胃病のすへ醫者よりがんになりて到底たすからぬと同村柿田醫院にて申され候處速に薬御送附下され候所毎日之用

にはきおりたる所二日間服用候處不思議にもはくのも止りいたみもずん／＼善き方に向ひましたるも貴店の御蔭何はおいでも禮状差し出す心ぐみの所かへつて御書面見舞下され何とも申様はありません私や善作の思ふのにはまづ此薬よりいがんに他になし日本一と私しはおどろきました故世の同病諸氏に御傳へ下され度まつたく御店の玉もの厚く御禮申上候次に只だ胃病だけでも此薬なれば善いでせうか一寸お伺申上候善作清九郎お禮申上候此上の喜びは有ませんまつたく一命を貴店にて御ひろい下されたると思ひ升同病者に善作傳へ保證する心ぐみ是れを以て御禮申迄で書留にて三月三十一日に金子七圓おくり又カンクロを御願申度とおくりましたが如何で御座い升か一寸御返事下されたるか一寸御伺申上候

山下清九郎再拜

一日も早く御返事下され度まぢおります

胃痛は何と云つても、總ての痛の中では一番数の多いものですが、概ね慢性胃加答兒から、胃潰瘍に進み、年齢の加はると共に、必らず痛腫に進むものであります、胃酸過多症も危険のもので、いづれにしても痛腫に進みますと、必らず嘔吐の伴ふものでありますから、さうなつたら

癌の初期と考へて、服薬なざるに限りません。胃潰瘍になりますと、澱粉消化素であるヂヤスターゼも奏効せず、蛋白消化素であるペプシンも奏効せず、とても全治しませんが、小店のカンクロウツリンを用ひられますと、長くも二ヶ月ぐらひで、不思議なように全治されます、それは脂肪が徹底的に消化されるからだと言はれて居ります。

私共のくすり<sup>を</sup>を求められる患者は、胃癌であれ、子宮癌であれ、その他の何癌でも、概ね手術後の御病人か、さうでなければ、激烈な光線療法を受けられて、特に危篤に陥つた時期のお方に多いのであります。政界や實業界の名士達は尙更さうです、さて危篤状態になられますと、急に神佛への御祈願がはじまつたり、また、周囲のお方達が、ありとあらゆる傳説的に遺つてゐる民間薬まで、大急ぎで物色されるものであります。

それは餘儀ない人情でせうが、どうかまださうまで潮死の危篤状態になられぬ中に、御試験くだされば、必らず驚くべき偉効を發揮させる事が出来ると思ひます。さて子宮癌となりますと、胃癌と違つて、随分貧者階級の中にも見られます。それで妙な事には、都會の患者よりは、農村の患者の方が、全治する成績が良い事でありませう。いづれもそれは生活環境の然らしむるところ

ではないかと考へられます。

尙ほ後章で少しばかりお話しますが、小店發賣のカンクロウツリンは、前段で申し上げたように日本の醫聖「カク」の徳本先生の遺方に據り、當時の共同研究者、故人西村知本と云ふ人が、同郷なる先輩、宮中顧問官、醫學博士井上通泰先生の御斡旋にて、金澤醫專の教授であつた病理學者、醫學士有松戒三先生を推薦して頂き、同先生の研究から創製され命名されたものですが、宛もその時代に他にも研究者があらはれて居りました。

醫學博士、理學博士、京大教授松下禎二先生の手から、プロチモール或は、カルチノリジンと稱する注射薬が生まれました、同博士はそれに溶癌酵素と名けて居られました、私共の實驗に據りますと、溶癌酵と申すべきものではなく、抗癌酵素であらうと思ひます。注射薬では止まりませんが、カンクロウツリンを内服いたしますと、まづ嘔吐を中止させ、癌の進行症状を明確に遮断させ、患者を輕快に導く事は實に奇蹟的であります。

拜啓時下寒冷の節と相成候處、御堂には各位益々御健勝之段大賀奉り候、サテ先達ては御高重なる海松子油病氣見舞として御送付下され、誠に御禮の申様もなき次第に候、此の段書中にて

御禮申上候、尙ほ御書面にては愚妻の病状且つ全癒の経過を書き記して送付せられよとの事、一寸愚筆に認め送付申上候。

愚妻儀は本年五十五歳に相成申候、先年より度々月經に相似たる形跡あり拙者ども不審に堪へず、全く子宮内膜炎にかゝりたるものと思ひ、醫師の診察も待たずメスチンを内服し、ナイル球を用ひさせ居りしにかゝわらず、段々病状を重ね、病苦の餘り本年六月になりて、香川縣琴平町なる林婦人科病院にて診察を受け申候處、本病氣は内膜炎にはあらず、子宮癌腫なる事を申され候て、憂慮すべきものにて、何にしても半歳くらい生命を保つに過ぎず、労働を廢し美食して世を去れと宣告され、本人に於てはまだく多少の労働に堪へ居るも、醫師に斯く見限られ残念の餘り、足も立ざる程となり、自動車にて歸宅され、私共もなすことを忘れ、心痛に心痛を重ね候、然るに六月十二日附にて香川新報に、東京市芝區琴平町一番地洗心堂藥房に治癌劑のある事が廣告されあり、直に郵書を飛して治癌劑や其の療法たづね候、治癌の食物と云ふ冊子やら、不幸なる癌の云々と云ふ宣傳書を送られ、拜讀して喜んでカンクロウヅリを注文して郵送を願ひ、服藥約一ヶ月すると、少しく藥効を奏する様に見られ、繼續して八月二

十九日に至りて、同縣普通寺小野婦人科病院にて診察を受け候、此の小野病院長は香川縣赤十字病院にて婦人科受持の醫師、而して個人病院開設の人に御座候、診察の結果は子宮癌なるも少しく全癒に近寄りてゐる、今は豌豆大の腫となりて居る、今は何の手當をして居るやと問はれ、御堂よりの藥の事を申上候處、小野様も驚いて其の藥を用ひよとの事故に、繼續して居りしところ、十月初旬には全癒の心地となり身體も若き時よりもよほど肥滿を添へ、何言ひ分なければ、農家であるから働きを續けて見たるに何障る事なくして、又々十一月二十三日になり三浦郡森田病院婦人科婦人醫に診察を受けました、其の婦人醫は癌の全癒はラジウムに二ヶ月位、光線をかくれば全癒となるが、今は根跡の膜の固くなるのを待つのみとなりて居る、今まで用ひて居る藥は決して廢すべからずと申され、治癌の妙藥なる事に驚き居られ候、癌は一端を治したりとて、安心すべからず、まだ連續せよと申され、拙者も御堂より癌の食物療法の話等の虚ならざるを信ず、愚妻に取りてはカンクロウヅリンの効驗は忘れることは出来ません、此の事を世に宣傳して大に藥効を弘めたいと思ひます。

十二月十二日

香川縣〇〇郡〇田村一九八

門 脇 利 藤 太

洗 心 堂 様

金子送付申上候間上等なるカンクロウヅリン御送付下され度く先日の様なる上等品を願ひます。

門脇氏の御令息が、その後上京され、いづれかの學校に入學されたとかで、何でも私共の店舗へ立よられた事を記憶して居ります。だが、子宮痛の患者には、絶対に全治されて、現在も東京に生活なされて居られるお方が澤山あります、その中でも……

復啓御照會の件左記御解答申上候。洗心堂發賣カンクロウヅリン「虎の門の藥」飲用致し候患者は私の附近にて、淺草區千束町二丁目待合「福島」女將井田かね殿にて、私の取次により服藥致し候事確實には候へども、該藥のみには候はず東京帝大にてレントゲン療法をも併用致し居られ候につきカンクロウヅリンにて絶対治療全快とは云ひ難きものに候、併しレントゲンを用ひず藥品のみにて全快したりと思はるゝくらい効能あることは争はれず、殊に原藥の煎汁

にて局部洗滌及消化器等の關係は明らかにして、用ひたる場合と然らざる時との差之れあり、貴殿御聞きの通り藥品療法としては他に是れ以上のものは聞き申さず候、尙同時にレントゲン治療を併用したることゆへ、此の藥のみとは斷定致し兼ねると云ふのが事實にて、自覺症狀としては、患者自身の感じからでは此の藥品の使用中にはあきらかに可也早く効あることゝ覺へ居られ候。

以上の結果は有の儘にて、藥品療法一方のみに有らざりしことなれば、御希望に添ふ御返事を申兼ねる事を遺憾と存候。

元東京帝國大學醫學部藥局藥劑師

翁堂ワタナベ藥局 渡 邊 駿 吉

大正十四年の七八月頃或る朝早く、まだ小店では寝てゐた時に、淺草千束町の翁堂藥局よりカンクロウヅリンを取りに來り、爾來三ヶ月に亘りて内服されてゐたのですが、小店では何と云ふ患者が内服されてゐるものかも知らなかつたのであります。然るに秋のくれ時分に花柳界の婦人らしきものが店舗へ訪ねて來られて、實は自分は子宮痛に罹り最初は東京大學の病院で治療を受

け、段々重態となつたので小石川の阿部喜一郎博士の病院へ入院してレントゲン治療を受けてゐたのですが、同じ入院患者で子宮癌の患者がお宅からクスリを買つて飲んだら不思議に全治して退院したのを見ましたので、早速自宅附近の薬局へ頼み、お宅のクスリを買つて飲むやうになつたのであります。當時の自分は非常に重態にて、遂に危篤と云ふ事になり、阿部さんの病院で、最早絶対に回復の望みはないから、退院させて死後の用意をするやうにと親類のものへ申し傳へられ、三日くらいの生命と申されたさうです、それで己むを得ず退院して、唯だあきらめの爲めお宅のクスリばかりを飲んで居りましたら、不思議に段々良くなつて、廿日ほど前に床上げをしました、そこで頼みつけの近所の醫者を見て貰ひましたら、之れは不思議だ、ドウも子宮が無くなつてゐると申されましたので變に感じられ、大學病院へ又行つて先の先生の健康診断を受けますと、子宮は無くなりはないが、如何にも不思議な経過で全治したものであると云はれました、そこで實はカンクロウヅリンと云ふ藥を飲んで全快したのですと申しましたら、ソんな事はあるまい、阿部サンの病院のレントゲンが利いたのであらう、兎も角も不思議な生命拾ひしたのだよと申されましたから、序に阿部サンの病院へ行つて見て貰ひましたら、實に不思議にレ

ントゲンが利いたのであらう、それと云ふのもお前サンの平素からの食物が良くて、大體の營養が良かったからであらう、田舎の人が澤山入院してゐるがドウしてもお前サンのように治療の効果を擧げることは出来ない、ドウしても藥は利く筈がないものであるから、レントゲンで全治したと申されますが、併し自分としてはドウしてもカンクロウヅリンの効能で全治したと信じて居りますから、他の實例も伺つて見たいし、再發する病ひと申しますから、今暫らく服藥しますからよろしく頼むと云ふ話でした、そこで子宮癌のお方で藥をお求めの人に、店員が此のお話をしましたら、其のお客様が一生懸命に詳しく聞かれました、翁堂の薬局へ其の事實の真相を問合せられて、なる程と感ぜられて、カンクロウヅリンを取りに來られた時に、實はお話を疑つて照會しましたら、大體に於て貴房のお話は本當であつたと云ひ、其の手紙を見せられましたので、拜借を願つて、コゝに掲げたのであります。

子宮癌の患者がカンクロウヅリンを服藥されますと、それはその御病人の御體質にも據る事ですが、どうかいたしますと、甚だ急激に子宮癌が崩潰して、流れて外部へ出て仕舞ふ事があつてこんなものが出たのですと云つて、御家族が熊々持つて來られて、意見を求めに見へられた事も

ありました。

松下博士はさうした事を幾度か體驗されましたので、溶癌酵素が出来るのだと申されて居りました。博士は此の原薬を漢法式の煎薬として、可なり長い間、諸方の患者に用ひて見られ、確信を得られてから、注射薬を創製されたのですが、如何せん注射ですと、二十回、三十回と急に回数を重ねませんと、溶癌作用は起つて来ず、或る博士は溶癌ではあるまい、それは患者の體内で抗癌酵素をつくる催進力あるものであらうと云はれて居りました。いづれにしてもなかく、抗癌的作用が起らなかつたのであります。

次に掲げました禮状は、直腸癌が崩潰した一例ですが、それで案外早く御病人は、全治したと云はれませうが、少なくとも二三ヶ月間は服薬なされ、癌腫の起らぬように、努めて食養法をなされませんと、再びいづれかの癌腫に罹る心配があるものです。

謹啓愈々御盛榮敬賀奉り候扱妻ユキ儀本年二月以來慢性胃腸病となり潰瘍を起し四五月頃數回生命危きところ幸ひにも助かり居り其の頃より直腸部に固形物ありしが益々衰弱を來すのみにて一向快方に向はず八月廿二日遠路(十三里)自轉車二輛に臺を構へ横臥の儘、親類の醫者の

ところに入院治療を乞ふ事とし九月の初め頃、直腸部の固形物は癌腫で分殖した、到底之れは治療の見込なしとの事となり親類の者も生別に來り、葬式の事等協議し最早望む食物等無理に抑制するにも及ぶ間敷とまでになりしも、如何がして助けたいきものと神佛に祈願し、専念考慮せし折柄貴方大毎廣告に癌のなほつた話ありしに依り送本申込み九月十日着せしに依り直に披見十四日直に送金せしが十九日病人の處に着せり、病人には胃腸の妙薬を知人の木屋から聞いたから取寄せたと云ひ、醫には勿論告げず、服用せしめしに、廿一日に至り直腸部の固まり及び分殖の小固形皆無くなり、醫師は不思議だと云ひ、其の後段々快方に向ひつゝ有之候、餘り効果著るしく他の原因か、或は癌腫にあらざりしか等疑ひなきにもあらず、然し何にせよ一命を拾ひしこと故、我々と子供等の喜びは此上なく本人は其の事情を未だ知らざるも永らくの病苦幾分づゝ減りたれば「カンクロウヅリン」の爲めと申居り候、依つて又二回に慢性胃腸を直す爲め、去る二日送金せしに其の時、所を思ひ違ひ芝區愛宕町一の一洗心堂としたり依つて届かずして送還すれば直に書き直し改め送付を乞ふことゝせり、小生は多用旅行勝にて病人の處に居ること出來ず、去る二日より旅行中なるが其の後段々快方に向ふらしい、最早醫者も安心

して可からうと云ふまでになり、不思議に命拾ひしたと云ふ、今暫らく食物其の他注意養生すれば全く回生すべく信ぜられ候故、追て感謝も差上げべく候、取りあへず右の事情申上候、

病人の居處は佐賀縣〇〇郡〇村〇白、成松醫院方

荒木ユキ(四十八歳) 長崎にて夫、荒木誠道より

送金届き候はゞ御送薬願上候

洗心堂 御 中

癌の治つた話に就ては、實は限りないほど澤山あります。以前に印刷いたしました、治癌の曙光と申す本には、御本人達のお手紙その儘を寫眞版にして出しましたら、その全治者達のところへ、眞偽を御照會なさる方が澤山出来まして、反つて面倒な御迷惑をかける事にもなりましたので、さうした御疑念を抱かれる方には、小店へまで御出でを願ひますと、歴然とした證據をお目に掛けてお話す事か出来ると存じます。

尙又傳説中にある治癌劑を眺めますと、面白い共通點があります。さうして癌の治つた話は、ひとり小店のくすりばかりでなく、傳統的にも澤山あります。大阪毎日新聞社醫局囑託の醫學博

士廣川松太郎先生は、麩を食したら癌が治つたと云ふ意見を發表されてゐました。ビタミンAが癌に利くとは、内務省營養研究所の技師から發表されて居ります。ところがそれは動物試験には奏功しても、人の癌腫には餘り効果が擧つて居りません。患者の生理機能が、脂肪消化不能に陥つてゐる爲と思はれます。

弘法大師は菱の實を以て、癌腫の靈藥と教へたと申されたり、慈眼大師は胡麻を以て癌腫の治療が出来ると云はれて居りますが、私どもはさうした多くの傳説をたぐつて、研究して見ますと、それが必らず一種の脂肪消化に向つて、或る力あるものばかりである事を發見したのであります。

だが、臍帶でも、藤の瘤でも、傳説中にある癌のくすりは、總じて幾分でも脂肪消化の不足を補はんとする目的から撰まれたものですから、吾人の第六感馬鹿にならぬものですが、しかしいづれも効力が甚だ微弱であり、それは寧ろ癌腫の豫防によろしく、また、食養法によろしく、全然棄て去るべきものではありませんが、危篤な患者に與へましても、別段に効果はあるまいと信じます。



## (五) 治癌藥發見の尖端考察

我國の醫聖「カク」の徳本が、草木の癌腫に罹れるものを見まして、人間の癌腫を治療する醫術は、まづ以て此の草木の癌腫を研究するにありと考へた事は、既に前章で語つたところでありますが、それは確に眞理であつたと思はれます。

藥劑には植物製劑が多いのであります、動物製劑も昔から澤山ありますが、それは要するに動物が植物を食して、肝油が鱈魚にありますのは、海草の所持したビタミンに他ならないのであります。血清的注射薬に匹敵する薬劑も植物中に澤山ある譯でせう。支那の本草綱目は文政五年に、早くも獨逸の薬種研究會で翻譯されて、現に伯林の王立圖書館に澤山所藏されて居ります。最近此の書にヒントを得て、獨逸の或る技師は、大豆の中から、最優秀の染料を採る事に成功して、それが既に大工業となつて居ります。我國ではまだ例のコールターから採收する染料すら完全に出來ない中に、世界は恐らく植物的染料の昔に還る事と思はれます。

それはさて置き、我國醫界の大生理學者であり、哲學者でもある東大教授、醫學博士永井潜先生が、癌の治療薬に就て言はれるには……………

六〇六號の發明によつて大なる衝動と激勵とを與へられた學界に於て、化學的療法が多大の冀望を以て研究せらるゝに至つたのは當然の勢である。

就中一九一一年、(明治四十四年)伯林のランゲンベック、ハウスの一角より、斯學の泰斗ワツセルマンによつて發表された癌の化學的療法に關する報告は、一時世界の視聽を引き着けたのである。たとひ此の研究が、遺憾ながら豫想を裏切つて進捗しないと云へ、見逃すことの出來ない學術的興味の上から、茲に之を紹介して見たいと思ふ。

元來癌腫と結核とは人間の最も恐るべき二大強敵で、その撲滅は學者が苦心熱中して居るが、未だ十分に最後の勝利を得るまでには行かない。癌に對しては、その初期に於て外科手術によつて之を除去するのが、唯一の治療法であるが、悲しい哉此の方法では、顯微鏡でなければ見へないような微細なる癌細胞を、一つも残さず取り除く事は殆ど不可能である。しかも多少でも此れが残留すると、それから無数の癌細胞が繁殖増生して、再發を起すものである。

近來は「ラヂウム」放射線が、悪性腫瘍等の如く、急速に繁殖する細胞には、普通の體細胞に對するよりも、遙に激しき破壊作用を起す働きある點を利用して、「ラヂウム」療法も亦大に有望となつて來たが、併し惜い哉「ラヂウム」放射線は、餘り深くは體內に入り込まぬものであるから體の深部にある腫瘍にはその効力が大に弱い。尤も最近では「ラヂウム」の「エナマチオン」を集めて之れを非常に微細なる硝子管に入れ、該硝子管の多數を奥深く刺し込むことによつて、深部の腫瘍破壊に奏効あらしめたり。或はまたX線の深部治療法も大に見るべき成績を擧げ得るに至つたことは、頗る意を強うするに足るものである。

それは兎に角として、若し茲に一定の化合物があつて、その物は悪性腫瘍の細胞には猛烈なる破壊作用を促しつゝ、しかも體細胞には餘り害を及ぼさぬようなものであつたならば、それこそ實に理想的の藥劑と云はねばならぬ。然るに茲に顧慮せねばならぬことは、癌細胞は病的の産物たるには相違なきも、しかも外來の細菌若くは原生動物等とは譯が違つて、矢張り自己體內に於て出來た細胞の一種であるから、普通の體細胞と癌細胞とは、その性状も亦類似してゐて、決して原蟲細胞と、體細胞との間に存するような、著しい相違のないものと見なければならぬことである。

ある。

果して然らば、癌細胞を破壊すべき藥劑は、殆どそれと同等の破壊力を體細胞にも及ぼすべきである。殊にまたその藥劑は、之れを血中に入れると、他の働きを借りずに自ら進んで路を求めつゝ、癌細胞に達すべきものでなくてはならぬから、その條件を充たすべき藥劑を製する事は、一層困難な譯である。是等の理由から、癌の化學的療法は、絶望の外はないものと信ぜられてゐた。

然るにワツセルマン及びその門下は、此の困難に打ち克つて、上述の如き條件を具ふる藥劑を製造することが出來た。此の大發見の動機となつたのは、次の事實であつた。

ワツセルマンは手術によつて剔出せる癌は、患者の血清中に於ては、健康者の血清中に於けるよりも、長時間生存し得るや否やの問題を、實驗的に確めんと欲して、その生存期を検知すべき試験として、「テール」酸曹達及び「ゼレン」酸曹達を使用した。是等の鹽類は、生活せる細胞によつては、還元されて黑色若くは赤色の礦物を遊離するから、生存期を知るには極めて都合がよい。しかも此の實驗の結果、癌細胞生存期は、患者の血清と健康者の血清とで、別に相違の

ないことが明かにされたが、その際ワツセルマンの爛眼は、顕微鏡下の所見に徴して、「ゼレン」若くは「テルール」鹽類と、癌細胞との間には特別の結合力を有することを早くも見て取つた。そこで是等の化合物を、先づ鼠の癌を病めるものに就きて、局所的にその腫瘍内に注射して見たところが、果して腫瘍が軟化、液化され、吸収されて治癒することを確めた。

茲に於てか更に進んで、血中に此等の鹽類を注射して、内部よりして癌細胞を残りなく剪滅せしめんことを企てた。しかもその際は等の鹽類が、自ら進みて癌細胞に到達する爲には、道案内者たるべき働きをなすものゝ存在が必要であることに心附いて、「ゼレン」鹽類に更に「エオジン」を結合せしめ、その目的を遂ぐる事が出来た。

斯くてワツセルマンは此の「ゼレン」、エオジン製劑を用ひて、之れを鼠の癌腫を病めるものゝ血中に數回も注射すると、「ゼレン」は自から進みて癌細胞内に入り込み、その細胞のみを破壊し軟化し吸収し盡くして、之れをして再發の患なからしむるものであることを確め得たのである。

ワツセルマンの研究は、鼠に就て爲された丈けであるから、今直に之れを人體に於ける癌の治療に應用して、果してその効果を收め得るや否やは、輕忽に斷定することは出来ぬ。加之、最初

の報告があつて以來、已に十數年を閲して、猶ほ、抄々しき進歩を見ないのは、正さに大停頓と言はなければならぬのであるが、併しワツセルマンの此の研鑽は、兎に角、癌療法の暗夜に、一閃の光明を齎らし來たものであつて、恰も谷燈まり山聳ち、最早進むに由なしと嘆息してゐた旅人が、忽ち一條索の如き樵路を見つけたような觀がないでもない。

以上の記事は、永井博士がその名著、生物學と哲學との境に於て、書れてゐる中の一章であります。

それを見ましても、癌の完全なる治療劑の生れる事は、最早時間の問題であらうと思はれます。次に我國に於ても、大正十一年の頃に、醫學博士、理學博士、京大教授を十八年もされてゐたと云ふ、松下禎二氏に據つて、プロチモールと稱する癌の治療劑が生れて、斯界に一大センセーションを起した事がありました。

その注射薬は此の本の前章で、一寸お話しいたしました。種々なる事情があつて、後にカルチノリジンと改名されましたが、博士の物故と、經營難の爲に、今ではやはり一大停頓状態に陥つては居りますが、それはワツセルマンの研究と、「カク」の徳本の研究とを結合させたような

ところから、生れたものでありますが、その當時の醫事公論誌を見ますと。

プロチモールの發見者は、松下博士、日野ドクトルとして、發表されてゐるが、二君の發見に先ち、今一人最初の發見者があつた。それは日野ドクトルの舊知で、此の人は何等醫學には關係のない者であるが、某地で産する或る植物の實が痛に良く利くと云ふ事を聞知し、その實を日野ドクトルに送つて實驗を請ふたのである。

ドクトルは、最初は之に重きを置かなかつたが、一昨年秋の或る日、一患婦に子宮痛の手術を行ふた際、出血が甚だしくて、種々なる方法を行ふても、中々止血しなかつた者に、右の實の搾汁を用ひたところ、出血が漸次止まり、後には悪臭の分泌物も去つて、症状が大に輕快したので、頗る不思議に思つてゐた。

そこで此の事實を松下博士に話すと、博士は頗る興味を感じて、共に之が研究に従事することを協議し、他に一名の醫師と、出資者との四人の組合組織で、東京醫藥研究所を設立し、松下博士は所長として、専ら製劑及び動物實驗に當り、日野ドクトルは臨床實驗を擔當すると共に、他の兩氏は藥効吹聴の宣傳に當つたのである。

斯くて一年有半の後に、製造發賣の準備が出来たので、醫家、素人、新聞記者等を招き、築地精養軒で發賣の披露をし、茲に、從來不治の病とされ、全く醫藥の與へられなかつた癌腫に對して、特效藥が發見されたる如き宣傳が行はれて、死の宣告を受けたる不治の惡症に苦めらるゝ、憐れむべき人々の救ひの神が、來臨したかの如く、一回一耗の注射藥五圓、一箱九本入金四十五圓と云ふ。破天荒の高價なる注射藥が、羽が生へて飛んで行き、扱つた店は、その期の配當がレコードを破つて、高率に上る可く、松下博士の立派な邸宅と、明年の選舉運動費が、スグにも湧き出す好況となつた。

是に勢力を得た關係者は、忽ち大乘氣となつて、益々宣傳に力を入れ、松下博士は學界の非難を馬耳東風に附して、神聖なる學會を商品の廣告場とでも心得たかの如く、各地の學會に押出して、盛に此の不思議なる新藥の宣傳をしたものであつた。

而して此の勢で一年も進めば、取扱店の配當が十割にもなり、松下博士の邸宅が新築されるのも間違ひないと思はれたが、好事魔多く、當て事と何とやらは向ふから外れると云ふ原則は、此の好景氣の新藥營業にも當て嵌つて、一ヶ月千二百箱、此の代金四萬五千圓も賣れた好景氣は、

僅かに昨年（大正十一年？）十月の一月月だけで、浙瀝たる秋風は早くも此の研究所を吹き捲くつて、茲に衰殘の運命を持ち來たさずには置かなんだ。

十月の一月月に千二百箱も賣れて、新藥界に賣行きの多大なるレコードを作られたとしたものも、翌月は忽ちその半額となり、三月日には三分の一に下つて、甘い夢は僅か一月で醒めてしまった。衆議院議員であり、帝大教授であり、而して學位の二つも有する松下博士は……云々と、以上は醫界第一の機關誌、醫事公論の記事を轉載したものであります。

だが一月月に四萬五千圓のものを賣りますには一年有半の歳月を流し、少なくとも二萬圓の研究費と創製費を要し、三萬圓の宣傳費を散亂させて居つたのですから、實はその關係者は、結局大損したのが實際でありました。

尤も此の注射薬もワツセルマン氏の場合と同じように、少なくとも八回十回と連続せる注射に據つて、溶癌作用を起すのであつて、一筒五圓とあつては病院でも患者でも使用難であり、またその位の價格を賣らなければ營業にならないからであつたのでせう。

薬劑が營利の下に製造され發賣される社會では、いつまで立つても癌の薬は、決して有名にも

ならず、打算に中らないのであります。幾ら宣傳しても癌には薬がないと云ふ先入觀念のあるのと死亡率から見れば驚くべき數でありますが、まだ何と云つても患者數は少ない方の王座を占めてゐるので、實際に賣りようのない環境にあるからです。

我等は松下禎二博士に、深い同情を持つてゐる一人であります。博士は長く獨逸に留學してゐた學者であり、京都大學に十八年間も教鞭を執り、寄生物性病論と題せる、各卷一千ページもある、四六倍判の大冊、拾二卷も著作され、その他、獨逸文の大著述三部もあり、日本微生物學會々長として努力し、世にも珍らしき大研究者であつたのです。

かゝる名譽ある學者が、幾ら營利の爲めとは言ひながら、殆ど身命を賭して熱中した治癌劑の材料には、實は動かす事の出来ない、確然とした輝やく典據のあつたもので、單に日野ドクトルの座談ばかりで、研究所を設立した譯ではなかつたのであります。

さて、我等が態々此處に、此の二つの話を掲げました意味は、總ての場合に於て、此の動物の臟器は何病に利くとか、此の草は何病に利くとか、或はまた胃病のくすり、肺病のくすり、淋病のくすり等々のそれが、種類は異つても、利くと云ふ精分を分析して見ますと、殆ど或る點に於

ては、例へば殺菌作用に於てあるとか、平和な刺戟を與へる點に於てあるとか、緊要なる養素を與へる點に於てあるとか、特効藥となる性質に於て、殆ど一致點を見出し得ると云ふ事をお知らせしたいからであります。

癌の治療藥は、傳統的に見ましても、東西の學者に十二分の一致點がありますから、決して藥がないのではありません。自然は必らず與へてゐるのですが、藥家も醫家もまだその秘密を探り出すだけの努力と、それに對する費用を拂はないから進歩しないまでのものであります。

### (六) 癌腫の食物養生に就て

ひとり癌腫ばかりではありません、總ての病患は、急性病であれ慢性病であれ、全身の營養が衰へますと、手術をしても服藥しても、全治しないものであります。ですから、食物養生は實に手術以上、また服藥以上に大事なものであります。尤もそれは今更申上ぐるまでもなく、我等の本能的にも良く知つて居るところであります。それはまた、病患の性質に據つて、極めて嚴重

に選擇しなければならぬものであります。

癌腫患者の食物養生は、他の患者と異つて、或る意味から申しますと、非常にむづかしい點があります。それはその病根が、結局のところ、消化器官の機能の變調から出發してゐるからであります。消化器官と申しますと、胃と腸とであります。その消化を助くる器官としては、肝臓も脾臓もあつて、そのどれかど一つ衰へましても、我等の身體は異常を呈して來るものであります。

我等の身體に異常なところが出來ますと、それが百病の本となりますが、特に緩漫なる營養變調は、確に癌に胃され易い體質となるものであります。それは不養生も、その尤も大きな原因であり、飲酒家に胃痛があり、喫烟家に舌痛があり、宇治やその他の茶の名所には、無暗に濃い茶を飲む刺戟に據り、比較的餘計に癌腫患者があると統計されて居ります。

だが、營養と申すことは、單なる食物の養生ばかりではどうにもならない、精神的な關係のあるものです。支那の孔明は英雄以上の聖雄でありましたが、出師表の中に、命を受けし日より、寝ねても席を安んぜず、食しても味を甘しとせずと書て居ります。

聖雄孔明は千七八百年も前の人ですから、その死因は深く判りませんが、推想するところでは胃癌であらうと思はれます。南征北伐に狂奔し、精神的刺戟の結果、消化不良より生ぜる胃癌に罹り、五十四才で歿して居る人です。

いづれにしても癌腫患者は、まず以て精神の安易を計る必要があります。佛説にも五慾を去れば萬病を治すとありますが、それは眞理であります。

それから次には、最有力なる營養源を探る事ですが、主食としては半搗米が、胚芽米のお粥がよろしいと思ひます。それもとろ火で長く焚いたものが理想的です。その量は患者の心に任せて無理に餘計な量を與へない事です。一ぜんでも二ぜんでも、或は四ぜん五ぜんでも差支へありませんが、それは患者のその時の氣分と、食慾任せにしてよろしいと思つてください。

次にはその副食物、即ちおかずですが、その主なるものとしては、一回の食事毎に、必らず鶏卵の黄味ばかりを二個づゝ與へてください、調理法は半熱を理想としますが、時には生でも差支へありません。白味は不消化ですから害はあつても、癌腫患者の益にはならないものです。

それから、新鮮な魚類は結構ですが、肉類はよろしくありません、魚肉の中でも鯛やかれい、き

すの類がよいのです。尤も患者の嗜好品は少しは差上げてよろしいと思ひます。魚肉の中にも患者に依つて、平素から好むところのものがありませんから、烏賊とか章魚は駄目ですが、その他のものは概ね差支へありません。

患者の習慣に據つて、トマトを好まない方もありますが、砂糖をかけるとか、或は鹽をかけるとかして、これは是非とも、お食事毎に差上げて頂きたいのです。ねぎ、ほうれん草、みつば、胡麻鹽も結構です。味噌汁は一日一度はよろしく御座います。

果物の中では、葡萄、林檎、梨、柑橘類の熟したものなら、いづれも差支へありません。絶へずその少量を食せらるゝ事は、大に營養を助くるものであります。

牛乳は癌腫患者に取つては、どうも結果が面白くありません。たゞし、一日一合程度のものへレモン汁でも入れて用ゐられても、それは差支へありませんが、寧ろ鶏骨のスツプの方がよろしく御座います。

以上は癌腫患者に共通した食物養生法ですが、別に異なつた方法ではありません。昔から總ての病人に對する、常識的な食物養生と思つてよい方法ですが、たゞ之れを嚴重に實行して頂く事

を希望します。

胃癌の患者は嘔吐を催して、食事をすれば悉く吐くと云ふ患者もありますが、それはカンクロウツリンの内服の力で、數日間にとまる問題ですから、別に取り立て、驚く事はないと思ひます。嘔吐を幾ら激しくやつても、暫らく食事を與へず、服藥されて二三日間、安靜にされて居れば、自然に嘔吐を催さぬようになるものです。

胃癌でも食道癌でも直腸癌でも子宮癌でも、多くの場合に於て、小店のくすりを求められます方は、前章で幾度も申して居りますように、何處の病院からも宣告されて、死を待つだけの患者ばかりですから、さうした患者はまづ以て體力の回復が先決問題となつてゐるのです。

手術後の患者は勿論のこと、光線療法をなされた患者でも、甚だしい衰弱に陥つて、殆ど食事さへ満足に出来ない状態の患者が多いのですから、小店のくすりを與へると同時に、出来るだけ營養食を何等かの方法で與へて頂かなければならないのです。

御病人の壽命さへ續いて居りますと、不思議な事には、患者の體質の中に抗癌素が出来まして如何なる悪性の癌腫も、自然に分解吸収されて行くものであります。さうした作用を促進させま

す力が、カンクロウツリンの特色であります。

藥劑に關する辭典を御覽になりますと、抗癌素と云ふ一欄があります。それは免疫血清中に含まれ、毒素と結合して之れを無毒ならしめる物質、例へば細菌性毒素、(チフテリア、破傷風菌等の培養濾液)植物性毒素、(リチン、アプリン)、動物性毒素、(蛇等々)を動物に注射する。注射は當初は極少量を以て始め、順次動物が毒素に對する抵抗力を増すに従ひ、遂には致死量の何百倍をも一回に注射するに至る。該動物の血清血漿中には、免役に用ひた毒素の毒作用を中和して、無毒に到らしむる免疫體(抗体)を含有する。各種の毒素産出によつて起る病患に、謂ゆる血清療法として使用する。近時此の抗癌素を血清蛋白と分離して、純粹な抗癌素のみを得んとする企圖の下に、種々の操作を試みたものもあるも、未だ完全に純抗癌素を得たものはない。と書いてあります。習慣は物質的にも第二の人生を創作いたしませう。

人體と雖も急激な中毒には仆されますが、それが慢性的ですと、その人の體力さへ壯健であれば自然と抗癌素が體内に出來て、いづれの中毒でも全治するに至るものであります。風邪を引いても熱が出ます、チブスに罹ると更に高熱が出ます、出るのは自然の作用で、病患を退治する爲



であります。その熱に堪ゆる體力がなければ、その途中で仆れて仕舞ひます。

癌腫の重症患者でありましたが、**カンクロウツリン**の内服を續けて、患者の自覺症狀が幾分でも、輕快しさうだと云ふ感じでも出れば、まづ大に見込みのある事になります。だが、多くの實驗に據りますと、寒中と暑中が一番むづかしい季節であります。内服を續けて寒中を越へますと十人の内、九人までは無事で翌年に移るものです。

さうして壽命が延びて居ります中に、體力が回復すると共に、抗癌酵素が體內に出來て、自然と癌腫が縮少し吸収されて全治する場合のあるものです。カンクロウツリンは抗癌酵素を與へる奇効あるものですが、それで全治されますと、多くの醫家は、それは誤診であつて、最初から痛ではなかつたのだと評しませう。

### (七) 全治者を再検討して

全治者の實例に就ては、既に前章の各段に亘り、なるべく誇大を避けつゝ、さうして興味ある

幾つかの實話を掲げて置きましたから、よく御記憶の事と存じます。

けれども、問題となります點は、他の疾病と違つて癌腫ばかりは、何等かの藥効に據つて、一時は輕快しても、それは宛も手術治療に依頼して輕快した時のようなもので、いつかは必らず再發するだろうとの御心配であります。カンクロウツリンを服用されて、ともかくも全治されたとなりますと、その御心配はまづ十中の八九まではありません。

昭和二年の暮から春に掛けて、福岡縣〇〇郡蓑〇村東町二百〇〇番地、高橋仁兵衛氏が胃痛に罹り、全縣所在の大學病院で、餘命幾日もなしと宣告されてから、餘儀なくカンクロを服用されて居りましたが、それは實に根氣よく續けて用ひられたものでした。さうしてその結果全快されました。

ところが、昭和四年九月三日づけの手紙で、突然カンクロ五個の注文が参りましたので、或は再發されたのではあるまいかと考へましたから、早速おたづねして見ますと、左のようなお返事が参りました。

謹啓、其後は御疎遠勝にて失禮仕居候、秋冷日に加はり凌ぎ能く相成候。貴店益々御繁昌慶賀

仕り候、先頃は御厚情の御書面に預り、誠に難有深く御禮申上候。小生他行中の處、今日貴翰拜見、斯く御無禮致候、小生八月上旬二日程、胃腹部膨滿苦痛を感じ、便通無之、依つて前御送附に預りし「カンクロウヅリン」の残りしものを用ひしに、大に心持ち良く相成候。其後本日まで別段取立て、申上ぐる程の何等の自覺も感じ申さず、又醫師（九大出）も何等の異狀を認めずと申居候。

右の有様に御座候處、子供達が父の將來を慮かり、念の爲に「カンクロウヅリン」の御注文を申上候由にて候。

右延引失禮ながら御返事旁々御禮申上候。敬白。

昭和四年九月廿二日

高橋 仁 兵衛

尤も痛腫患者はその年齢が、既に老衰期に達して居られるものですから、痛は全治しても、他の病氣に襲はれて、例へば風邪を引いても壯者と違つて、どうしても、肺炎等に罹り易いものでありますから油斷が出来ません。

もし、さうした危険状態を豫防し、五年でも拾年でも長命されたい方は、それはまた、別途の

養生法をなさるのがよいと思ひます。人は誰でも長命を欲しないものではありませんが、本來長命術なるものは、甚だむづかしいもので、藥劑の力や、食物の力ばかりでは絶対に求められないものであります。

だが、百歳以上の長命者、五人の人達に就て、その長命術をたづねて見ましたら、殆ど申合はせたように、人生一切の事に無頓着と云つた筋の人達ばかりでした。大飯も食はれますし、大酒も飲まれますし、少しも衛生などに頓着された事のない。田舎の人達ばかりでありました。

殊に人口の稀薄な農村で、文化の及んでゐないところの人達の中には、九十歳以上の老夫婦がヨク見られるものです。要するにそれは精神的刺戟の少ない爲と思はれますが、また或る一面には、そうした長壽者の揃つてゐる農村、山村、漁村には、必らず松林が澤山あるものです。松林のないところには、平均的に見て長壽者は少ないものです。

中華民國は現在殆ど戦亂の衝となつて居りますが、國が廣いだけに何と云つても長壽者のゐる事は世界第一です。二百歳を越へてゐるだろうと云ふような老人もあつたり、現に民國十一年、即ち今から十一年前に、百六十三歳になつた老人が、矍鑠たる風彩で寫眞を撮つて、世界の衛生

學者を驚かしてゐた事實が、四川省にありました。

その老人は阮國長と云ふもので、常食は普通のものとは別に變つてはゐないのですが、支那人の傳統的な習慣ともなつてゐる、豚の油を入れた料理を嫌つて、その油の代りに松の實の油を用ひてゐて、それが自分の長命である原因だと話してゐたそうです。

松と人生と云ふものに就て、更に大に深い研究される篤學者がありましたら、餘程意義のある或る物を發見されるに違ひないと思ひます。しかし、松にも種別があつて、岩石のようところで、數百年も繁茂してゐる松の實と、北海道や朝鮮、樺太あたりの落葉松の實とは、分析して見るとその精分に格段の差があります。

松の葉を食するとか、松の實を食するとか、さうした事が、滋養長命の素になると、特に盛に宣傳されてゐますが、それも滿更理由のない事ではありませんのです。たゞしそれが、強壯劑として利くところは、その油の中に含まれてゐる一種の酵素的なものであります。肝油の効能はビタミンAですが、松の實の油の効果はビタミンのいづれであるかはまだ不明です、しかし、それがビタミン系統の或るものを抽出す事は疑ひないところです。

小店では松に興味を感じまして、態々諸方から澤山の松の實を取り寄せて、分析研究を盛にさせたものです。朝鮮の或る地方から間島方面にかけて、特に藥劑的に珍重してゐる海松と云ふ樹木があります。それは岩石や砂原を好んで生長する一種の五葉松ですが、その實がいづれのものより一番理想的な或る物が含まれて居ります。

その油を冷壓装置の下に採つて、それを東京帝國大學に提供して研究を依頼して見ました。然るにそれが農科大學の研究室に於て、非常な興味を以て歓迎されました、農學士松山芳彦先生と農學士吉田正信先生が、徹底的に分析研究されて、その業績は、大正拾五年七月發行の、日本農藝化學會誌の上に發表されて居ります。

今その學術的な文献は、専門家でなければ讀んでも判りませんから、掲げる事を遠慮して置きますが、要するに世界稀な有益食油と云ふ結論です。末文に、本實驗を行ふに當り、鈴木梅太郎教授（東大教授農學博士、理化學研究所長）の御指導を拜謝し、實驗操作に就ては、農學士郷田肇氏の熱心なる助力を得、供試原料は（洗心堂藥房主）國谷豊次郎氏の寄贈に依りて、豊富に之を使用し得たり。また供試油の調製に就ては、藥劑師（洗心堂内治癌劑研究所雇）土佐健治氏

の勞を得たるもの多し、茲に以上三氏の厚意に對して、深謝の意を表すと結語をつけて居られました。

そこで昨今に及んで漸やく、此の油を完全に採取する事が出来るように、設備が出来ましたので、海松子油、貳百瓦一瓶金拾圓也を以て、希望者に分譲して居ります。此の油は肝油が肺結核患者に對して、唯一の強壯的効果を擧げて居りますように、海松子油は癌腫患者の體力を維持することに、偉大なる力を發揮して居ります。

何に致せ、特種な松の實から、搾り取つた精油でありますので、價格は高く、かなりの貴重劑であります。貳百瓦一瓶を卅日間に使用されますと、極めて適度の滋養強壯劑となります。さうして癌腫の再發を豫防する上には、二つとない靈劑と確信されます。

その用法は、カルピスでもどりのでも、さうした飲料の中へ數滴を落されて、一日三回位用ひられますと、老人の健康を保つ上には、眞に奇蹟的の効能があります。それで、海松子油は肝油と品位が違つて居りますから、寧ろ香氣はありますが、少しも臭氣のないのか特長となつて居ります。

植物油の中にも、たまには乾性油がありますが、海松子油は最も理想的なる乾性油に屬するもので、揮發性を持つて居ります。その性質は胡麻の油や椿油やオリーブ油と正反對のものであります。試に此の油で天麩羅を揚げて見ましたら、菅の油よりも遙に輕くて、之が天麩羅かと思はれますように、幾らでも食べられて、いやなおくびなどが少しも出ないところに優秀な價値があります。

ですが、どんな滋養劑であらうと、無暗に澤山の量を用ひても、何の効果もないものであります。牛乳は三四合が程度であり、鶏卵は五六個が程度であり、肝油は二三十瓦が程度であり、海松子油は六七瓦が程度のものであります。

海松子油は醫學博士松下禎二先生の治癌劑カルチノリジンの中にも加味されて居たものですが、之を危篤な癌腫患者に用ひて見ましても、どうも判然とした効果は擧げられませんでした。快復期に向つた患者ですと、著るしくその快復を促進させる力を發揮いたします。

小店のカンクロウヅリンを用ひられて、ともかく快復されたお方は、その癌腫の再發を豫防する爲に、どうか半歳ほど連續されて、海松子油の御内服なされん事を祈ります。それはまた、長

壽を祈願されるお方に取つての靈藥であります。さうして毎日一定の量を用ひられてゐる間は、決して便秘に悩む憂ひはありません。

たゞし、小店の發賣するカンクロウヅリンでも、海松子油でも多量生産は出来ないものであります。ですからその包装や何や乎が、多量生産の賣藥のやうに、美を競ひ、新意匠などを以て、世に媚びる式ではありません、多賣主義を排し、御希望に應じて御分讓すると云つた形式に據つて、それを本則に營業いたして居るものであります。

さてまた、お話をおくすりの方へ戻しますが、カンクロウヅリンは、御内服なさる患者の病狀の輕重にも據る事ですが、概して二週間目位から、その効能を現はすものであります。

拜啓、愈々秋冷の候と相成候折柄、貴房益々御隆昌の段、幾重にも慶賀至極に奉存候。拙者兼てより貴房御發賣の治癌劑毎日服用致居候處、其効果著るしく病勢を減じ、甚だしく快方に趣き居候。此點に就ては誠に感謝の余り服用致し居候條。右御禮申上候、尚今回金拾四圓貳拾錢振替を以て送附申候間、御查收の上、又々治癌劑二百瓦、至急御送り被下度、此段御依頼申上候也。

昭和四年九月十八日

秋田縣由利郡〇〇村

佐藤重助

洗心堂藥房御中

高價なくすりの事ですから、ともかくも自覺症狀に於て、確に輕快すると云ふ感じが出ませんと、決して繼續されないものであり、繼續されませんと、どうしても、全治の道程には達し難いものであります。

余計なお話を並べるようですが、雜誌改造の二月號に、いづれ博士か學士の優秀なお方と思はれますが、佐藤秀三と云ふ先生が、醫育改善の問題と云ふ事を書いて居られる一節に……

學び得る職業としても、常に接するものが不幸の人達ばかりで、更に痛や、重症の肺結核の如き如何ともする事の出来ない患者に直面して、醫術の無力なるを痛感する事も大なる空虚を形成するには充分である。

尙ほ社會に出ては、世相の急劇の變化に醫業難の聲が高く、就職難も年々増すばかりで、比較的収入の多い職業として選んだ醫業は、それ程有り難いものでないことなどを知るに至つては、

何の爲に醫學を選んだかを疑ふ人も多くなると思ふ、と書かれて居ります。

私共は此の先生に無限の同情をお寄せいたします、それは小店が、普通の賣藥屋のように、時間さへ経過すれば、どうやら全治すべきばいどく微毒や淋病や、または神經衰弱のくすりを賣ると違つて、十中の八九は死亡されると定つた御病人に對して、高價なくすりをお進めすると云ふ事は、甚だ苦痛を感じられますが、その御不幸の御病人が、不思議に御全快されたとなると、實にそれは何よりも大變な喜びを満喫いたします。

だが、子宮痛は實に惨ましい患者であると満腔の同情が寄せられます。それは飲酒の結果であつたり、肉食の結果である、男性の痛と違つて、同じ營養の變調を招くといひましたも、多産に據る貧血の結果であり、乳兒を哺育される爲の不眠の結果であつたり、同時に家計の心配に據る、精神刺戟となる苦痛の結果であつたり、特に中産階級以下の御婦人に多いのでありますから實に御氣の毒の事であると思はれます。

子宮痛はカンクローヅリンを内服されて、毎日二三回ほど、温泉療法をなさる必要があります御自宅へ風呂を設けられて、別府のものでも草津のものでも、湯の花を取り寄せられて、せめて

は腰湯だけでも使はれて、それで局部を洗滌される事がよろしう御座います。

温泉から湯の花を取り寄せられるまでは、近所の藥店から中將湯の浴劑でも、またその他のいづれの浴劑でもよろしいですから、それを求めて用ひられるのがよいです。腰湯でも入浴でも、身體を温められて局部を綺麗にされる事は、血行を盛にしてくすりの内服的效果を促進させる力のあるものです。

小店の營業は甚だ辛い事があります、雪の降る夜に至急電報が配達されます。電爲替送つたくすりスグおくれとありますから、夜の明けを待つて發送いたします、するとまだくすりの届かぬ内に、御病人が死なれて仕舞ひます。さうなるとくすりが不用になりますから、買ひ戻してくれと云はれて來られる事になります。

平素はまた、代金引換郵便でスグに發送しると御注文が参ります。それが運悪く御病人の生存中に間に合はないで、そのまゝ郵便局から戻つて來て、郵税も包装も手數も損失となる場合が、一ヶ月の中には數回も重なります。斯うした場合には御同情くだされて、ともかくも荷物だけは引取つて頂いて、藥劑の有効期間は一年もありますから、どうか他の御病人へ差向けられるやう

にお願いいたします。パンフレットは何冊でも差上げますから、御紹介願ひたいと存じます。たゞし、他の薬種との御交換には應ずる定めとして、現金受け戻しは御勘辨願ひます。それは創製者への利権もあり、精算の面倒もあるからです。

### (八) 癌腫發生の種々相を觀る

奇警な文章を以て、卅年前に、日本の今日あるを豫言したる、一年有半の著作がなくとも、我國の先覺として、また理學沿革史の名著に據る西洋哲學の紹介者として、はたまた、自由民權思想の輸入者として、明治の巨人中江兆民居士は喉頭癌に仆されて居りました。もしその時代にカシロウツリンが創製されてゐたならば、一年有半が拾有五年半となつて、更に大きな指導的名文を遺された事は確かであつたと思はれます。

碌々たる小人では駄目ですが、大人の資格ある人物でしたら、俺は癌に罹つてゐると云ふ、死に直面されますと、寧ろ案外に冷靜にもなり、病症の進行を遮斷する場合もあるものです。患者

に對して死病に取り憑かれてゐると宣告する事は、その人の性質に據つて悪くもあれば、善くもある場合のあるものです。

盖世の英雄ナポレオンは、癌に罹つて仆されて居り、それは實に有名な話となつて居ります。彼はセント、ヘレナの孤島に流されて、憂鬱なその日を送つてゐた事が、恐らくその病因だと思はれますが、しかし、彼の遺傳的系統には、罹癌の素質があつたと云つて、之れは又遺傳說に對する、一つの有名な話ともなつて居ります。

ビスマルクは舌癌に仆れ、それは餘りに芳烈なる喫烟家の爲であつたと解釋されて居ります。だが、いづれにしても癌腫は遺傳病ではありません。それは多くの學者が研究し、今日では殆ど一致して居るところの定説となつて居ります。また癌には傳染性のないと云ふことも確かめられて居ります。

それにしても我等の考へねばならない點は、癌腫と云ふ疾病は、特に不安な社會に多くして、平和な時代に少ない事でありませぬ。天下大亂の世の中には澤山の癌腫患者が出來て、大平無事の世となれば、それが甚だ少なくなる事でありませぬ。

尤も天下大亂と疾病流行は、相伴つてゐる譯のものかも知れません。ペストは暫らく此の世の中から蔭を没して居りましたが、明治廿六年久し振りで香港に流行したら、翌年には日清戦争が起りました。

羅馬は段々腐つて来て、果てはペストの大流行に見舞はれて、土崩瓦壞の運命に陥つたと書てゐる史家があります。要するに國が腐つて來ると、奇怪な疾病が猛威を揮ひ、遂には收拾し得ない場合となるものです。

然るに我國の今日は非常時と云はれ、特に各方面に亘つて癌の字を用ひられてゐる場合が多いではありませんか、經濟國癌、思想國癌、政治國癌と云つたやうに、國の至るところが癌だらけの氣持がするやうです。

さうした世の中ですから、我國の癌腫患者は、近來特別にその數を激増して居ります。我等は斯うした種々相から大觀して、癌腫の病源は必らず精神不安の刺戟に據るものが、その主なる原因でもあらうと考へざるを得ないのであります。

總ての病ひは氣から出る、それはつまらぬ俗語であります、確に人生の眞理であると申され

ませう。非常時の我國は、ひとり癌腫の激増するばかりではありません。どんな病氣が流行し出すか、誠に憂慮に堪へない世相ではありませんか。

去年は黒潮の關係が不幸であつて、我が東北地方は驚くべき凶作の年でありました。特に北海道は甚だしく、それが爲に、缺食兒童の問題以上に、國民の營養が悪くなつたと云ふので、内務務省の營養研究所から、技師が派遣されて、安價なる營養調理法の巡回講演が、至るところに行はれて居りました。

これは誠に結構な事であります。しかし、それよりも更に急なるところの問題は、國民の精神状態を安易にする事でありませう。營養と精神との關係、それは實に歴然たる證據を擧げて、大生理學者、パフロフに據つて證明されてゐるところの問題ではあるまいかと云ひたくくなります。

國家及國民衛生は物質的な瑣末な研究も必要であると同時に、如何にして國民精神の安定を期すべきかと根本であります。我等は此の意味からでも、醫藥國營論には、無條件を以て賛成するものであります。

何にしても當面の我國は、癌腫の國でもあれば、結核の國でもあります。醫學博士の結核で仆



れるものゝ多いのは、恐らく世界中で、その比を見ない國かも知れません。それはキツと國民基礎教育の缺陷に據るものと考へられます。

或る大病院とサナトリアムの經營に、大成功してゐる醫學博士の評に、結核は未來を多分に持つてゐる息子や娘達の罹る病氣であるから、お金を取り易いが、痛は父や母であるからあきらめが早くて、お金の取れない性質に屬してゐるので、痛の病院でも製藥でも、決して成功せぬものだと言つて居られました。

單なる私利を目的とし、或は自己擁護の爲の社會事業では、人生の不幸を撲滅する醫業は成立しないものであります。私どもは先ごろ、賣藥と醫院との藥價を比較研究して見ましたが、寧ろ賣藥の方が、その實質はともかくですが、容器や包裝に於て、打算的には安いものであるのに驚きました。

だが、しかし、我國は、軍事と醫術に於ては、世界のいづれの國からも、既に教へられる何ものもないと評されて居ります。けれども、日本の醫術が軍事のやうに、果して世界に誇り得るものでありませうか。

或る篤學な博士の手記に、私は外國留學を命ぜられ、普通ならば獨逸に本山參りの如く留學すべきところを、多少の犠牲を覺悟して、フランスに留學することにした。

様子の變つたフランスでは、大學で教はつた事柄を、今一度考へなほして見る機會が多かつた。大學で神様の如くに教はりもし、また自らも感じたドイツの大家が、フランス人にかゝつては、一介の書生の如く軽く取り扱はれてゐるのは面白いと思つた。

日本では金科玉條の如く、大學のノートの中にも表はれ、著書の中にも引用されてゐたドイツの論文を、フランスの圖書館で見ると、大きな疑問のマークが附してあつたり、極めて適切な短評で片づけられてあつたりするのを目撃すると、寧ろ痛快な氣持になつたと書てありました。

まだ、今日の日本には獨創性がないのであります。あつてもそれは、少しも資本家の注意を引かないものとなつて、葬られて仕舞つて居ります。日本人の發見した幾つかの專賣特許が、アメリカで發達して居るものがあります。藥劑にも二三のさうした實例があります。今の日本の社會心理では、それが悪い製品でも歐米のレットルを貼れば、それで忽ち良品と云ふ感じを與へて、市場に賣れて行く國ですからお芽出たいものです。

斯うした國柄では、勅任官吏の發明したものが、現任大學教授の發見したものなら、それが利かない癩腫の治療薬であらうと、ともかくも大衆の支持を得易いものですが、さうでないものと、幾ら効能があつても試用もされずに、けなしつける傳統性のあることは、どう考へても大國民の體度ではありませんまい。せめては沿道至るところの看板の蟹行文字が取り除けられる時代が來たら、それは必らず大日本國と云はれて愧ざるところの、事大思想を解放した獨自の國となるでせう。(完)

定價五錢也

昭和八年二月十日印刷  
昭和八年二月十五日發行

版權所有

發行者 國谷豐次郎  
並印刷人

發行所 東京市青山北町五丁目四拾八番地  
洗心堂書店

不老長壽の原動力となる

海松子油

此の自然界の靈的なる植物油は、肝油と正反對なる作用を以て、未だ原因不明の生活力的營養源を人體に附與する點に於て、消化難のビタミン劑の比にあらず。吾人の攝取せる脂肪は、僅かなる此の海松子油の服用に據り、極めて短時間に徹底的に消化され、從つて其の脂肪食品に含まれてゐるところの、ビタミン系統のあらゆる營養素は、遺憾なく其の力を發揮するに至る。我等のよこれたる衣服は、揮發油で洗滌すれば清淨となるやうに、體內に貯溜されてゐる不消化の脂肪球は、海松子油の微量にあつて、分解消化される事は、全く奇蹟的なる現象である。されば肥胖病者に取つて大なる福音であり、此の服用數ヶ月に及べば、中肉型の風采を呈し來り、また瘦弱者は、その反對に、適度の肉がついて來ると云ふ。營養建直しの滋強劑である。此の貴重な油の文獻は、帝大名譽教授、理化學研究所長鈴木梅太郎博士指導の下に、農學士松山芳彦氏、全吉田正信氏に據り、農大に於て分析研究せられ、海松子油の理化學的性質に就てと題し、大正拾五年七月發行の日本農藝化學會誌に發表されてゐる。

風味淡泊、特異の香氣を有し、吸收力及同化性に富み、營養價の絶大なる至高の珍品である。(分厘價金拾圓也、送料内地三十錢、海外六十錢、二百グラム瓶入、體内の洗濯資料に試用されるには、一日六七グラムの分服を可とし、一瓶を以て一ヶ月に用ゆるを適量とす。

製造分讓元

洗心堂藥房

電話青山(36)二九九八番  
振替東京三五八八六番

東京市赤坂區青山北町五丁目四十八番地

醫學士 有松三戒先生創製

CANCROUSURIN 癌腫治療藥

カクタンリツ

本劑は有松醫學士に依り創製されたる治癌藥にして、東洋特産植物脂肪中より發見せる或る物質（酵素？）を主成分とし、其の効力を特に保持せしむる爲に、異色ある紙劑に處理したものである。此處に謂ふところの或る物質は、細胞組織内に進入して、癌組織に達すれば、其の癌細胞は發達を阻止され、軟化し去りて徐々に吸収される。

されば癌に原因する神経痛その他の苦痛、或は惡臭ある分泌物、嘔吐の如き症狀は逐日減少して遂に消散する。

内服四五週間に及べば、癌腫は著るしく縮少する。食道癌の場合には、食物の嚥下が容易となる。連續服用すれば、癌は遂に吸収されて痕痕と化する。

本劑は健康體或は一般患者に對して、何等の副作用を起さず、寧ろ食物の消化を促進し、營養を佳良ならしめ、他藥で効驗無き慢性胃腸病に特種の効驗を奏する。

（用法）毎食後 五グラム乃至一〇グラム。

冷水或は微温湯にて用ゆ、但その藥味は可良であるから、内服に際し不快の感覺なきも、オプラートを使用するも隨意である。

藥價百グラム入壺瓶金七圓也 送料 内地二十錢 海外四十錢

東京市赤坂區青山北町五丁目四拾八番地

製造發賣元

洗心堂藥房

電話青山(36)二九九八番  
振替東京三五八八六番

終